

□ アナリスト週間相場予想

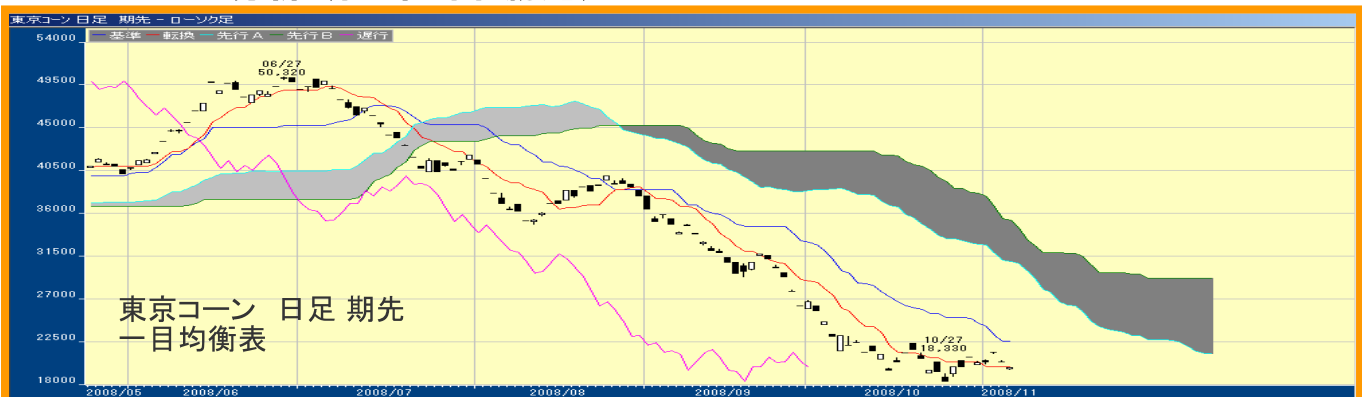
	 コーン Corn	 大豆 Soybean
江崎		
西		

Pick up News

〔注目スケジュール〕

- 11/10 米農務省 (USDA) 需給報告
USDA週間輸出検証高
USDAクロップ・プログレス
- 14 USDA週間輸出成約高
米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



東京コーン日足に一目均衡表を被せると、安値圏のレンジ相場が見て取れるなか本日転換線を日足が下回っている。日足チャートは単純パターン上トレンドレス、先週に引き続き18000円強~22000円所のレンジ相場となっている。一目均衡表の指標上はこれでサポートとして働く線は無くなったが、日足がつくるパターン分析上はこのレンジを下抜けなげり大きな下降トレンドは発生しづらい。かといって積極的に買い上げられる展開になるには22000をきっちり上抜かないと難しい。よって先週に引き続きレンジの上限下限で逆バリ方針がよいだろう。

一般大豆は先週述べた41000円のレジスタンスを一営業日突破したものの現在は又押さえられている。しかしながら一目均衡表転換線の上で競っており、このまま基準線をブレイクアップした場合は積極的な買いサインとなる可能性がある。コーンよりは日足は強い形、スプレッド方針は大豆買い・コーン売り。(11/7 前引け現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

穀物相場は底入れ機運を高めつつあるが、情勢はコーンよりも大豆買いに傾いている。この理由としては、やはり原油安の影響が大きいと見られる。原油相場が下があればエタノール価格が下がり、採算性の面からコーン価格には下押し圧力が働く。一方、大豆に関しては南米の動向が気掛かりではあるが、コーンよりも需給が締まっている点と、ファンドの買いポジション残高が急減している点が評価できる。

こうしたシカゴ市場の状況に加え、国内相場には海上運賃と為替が影響を与えるが、為替相場は金融不安と各国の利下げという要因から、短期的には円高推移を見通しておく必要がある。海上運賃は9年ぶりの安値水準となって、ようやく底入れムードが出始めている。投資の条件はかなり改善してきているのは確かだが、まだ先行き不透明感を払拭するのは難しいようだ。

なお、10日には11月需給報告の発表を控えている。10月分の修正が発表されて間もないだけに、大きな修正が施されるとの見方は小さいが、一応警戒感を持つべきであろう。弱気なシナリオとしては、コーンのイールドの上方修正、輸出及び国内需要の下方修正の両面が考えられる。需要減少という意味では大豆もまた同じである。現時点で集められる情報をベースにすると、大豆買い:コーン売りが一つの戦略として浮かび上がる。一般大豆は10月限から取引倍率に変更されているので、スプレッドを組む際には倍率に注意したい。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

RE0071 (許可取得日08/11/7)